

2026年6月29日（月）

老球の細道929号

6月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富 仁

28日に術後5か月を経過。月2回の抗がん剤治療8回が無事終了。CT、胃カメラで再発、転移なし。残るは月1回で8回の抗がん剤治療。薬の量も2倍になるらしい。

先日、田村市で行われた東北高校選手権大会観戦で久しぶりに高速道路運転をクリア。帰りに大好きなラーメン屋で味噌ラーメン1人前をクリア。ひとつひとつ以前できたことをクリアしていく達成感。バスケットボールのチーム創りと同じである。

1・映画から

◆「命は他人のために使うものだ」〈WOWOW『帰郷』藤沢周平原作〉：毎日の締めくくりはWOWOWで録画していた映画を観ることである。特に良いセリフは書き留めておく。仲代達也のこのセリフ、私にかけられた言葉ととらえた。昔読んだ映画の名セリフ本『お楽しみはこれからだ（1巻～4巻）』〈和田誠：文藝春秋社〉は映画鑑賞のバイブルであった。

2・テレビから

◆「I'm come back！（私は戻って来た）」〈ワールドカップ・ロナウド：対ウズベキスタンス戦〉：今回のサッカーWC、強豪国ではオジサンたちが大活躍している。レジェンドはいつでもカムバックできる。爺様も全快してコートにカムバックできるだろうか。

3・読書から

◆「思ったことはやらなければいけないけれども、本当に大事なものは態度であり、試練にどう向き合っているかということ。試練は人生からの問である」〈若松英輔著『100分で名著 代表的日本人 内村鑑三』NHKテレビテキスト〉：1回きりの我が人生。大いなる危機に対して絶望で応えるか、希望で克服するか。自分を知る絶好のチャンスである。

◆「種々の不都合、種々の反対に打ち勝つことが、われわれの大事業ではないかと思う。とにかく、反対があればあるほど面白い」〈内村鑑三著『後世への最大遺物』岩波文庫〉：教員としてもコーチとしても新しいことをやろうとするといつも反対された。そんな時に思い出す言葉が「他の人の行くことを嫌うところへ行け、他の人の嫌がることをなせ」だった。

2・新聞から

◆「苦しい時、もっと苦しいことを思い出せば、今の苦しさは何でもない。プラス思考でまず一步から這い上がればいい」〈朝日：スポーツ評伝：ガッツ石松〉：ボクシングで培った不屈の生き様は終生変わらなかったという。人は逆境で鍛えられる。自分の好きなことで逆境を経験できる人は幸せである。「ガッツ」という言葉は私の生涯キーワードとなった。

◆「（うまくいかないかもしれない）という恐れも人生の一部だ。警戒心や集中力を保つために重要なものだ」〈朝日：WC・ブラジル代表アンチェロッティ監督〉：勝敗は紙一重である。名コーチは自チームが最悪の状態を予想してゲームプランを練るという。チームの実力には調子によって良し悪しの幅がある。ことらの最低で、相手の最高と戦ったら必ず負ける。